

医者には嘘に弱いが……



男であれ女であれ、嘘をついたことがないというひとはいまい

だが、不倫騒動のタレントや政治家も、下手に嘘をついては自滅している。やはり、嘘は良くない。

23歳のK子さん。ずっと気分が沈んで、夜も眠れず、ご飯も喉を通らない。仕事を辞めたいが、会社は手が足りないからと辞めさせてくれない。で、診断書に、うつ状態で休職が必要と書いたら、1週間後に、「すっかり治った。薬も要らない」と言う。まんまと騙されたか？

38歳のNさん。5歳の時、頭を強く打って、軽い記憶障害が残った。普通に会社勤めをしていたが、

うつや障害の診断書

生活が苦しくなった。障害年金の申請をしたいという。確かに、障害年金は、体に障害はなくても、頭部外傷後の脳機能障害も対象となる。統合失調症やうつ病、認知症だって対象になるのだ。でも、Nさんの障害の程度は、仕事が制限されるほどではない。

診断書は書けないと断ったら、福祉関係と名乗る二人連れが現れた。「おつりの計算もできないというのに」とワッシーを責める。そんなはずはない。ワッシーは、子供の頃からずっとNさんを診ている。何度も、高次脳機能の検査はしているのだ。きっと、誰かが嘘をついているのだらう。

「舌を抜かれる」今は昔？

ならばと、知っている医者を紹介状を書いた。が、なんと、その医者も頼りない。Nさんは、希望通りの診断書を手に入れることができたという。今では、年金申請を手伝う会社もあるそうだ。申請が通りやすいように、診断書の書き方まで医者に頼んでくれるという。

医者は、嘘に弱い。騙されやすい。だが、嘘をついて騙すより、騙された方が良いはずだ。子供の頃、「嘘をついたら閻魔様に舌を抜かれるぞ」と、親にさんざ脅かされたものだ。が、最近はそういう話を耳にしない。

(石黒修三 しいしぐろクリニック
・脳神経外科専門医、金沢市在住)